

研究所だより

異才集団による「価値創造」

今年度はこれまでに5人（男性4人、女性1人）の研究員が入社しました。20歳台後半から30歳台半ばで専門分野もそれぞれ異なるメンバー達です。

当社は長銀総合研究所から数えても15年の歴史がありますが、その知見を引き継ぎながら今ではその時代のメンバーは少数派になり、他からの多様な専門家が集まった混成集団となっています。時代の変化に対応するためには常に新たな人材の導入は不可欠であり、異才の集合体はエネルギーがあります。人数的には大組織にはかないませんが、一人一人が複数の技を持つ集団であるため、テーマごとに自由に異才が横断的に融合することは大組織では出来ない当社ならではの特徴です。時代の転換の動きは速く、固定的な専門分野の集合体ではとても対応できないと思います。

政策立案、基礎研究、不動産事業、企業経営等あらゆる分野で高い壁にぶつかったら是非、新たな「価値創造」可能な異才集団に声をかけてください。

編集者から

前号はオフィス移転直後の騒然とした中で原稿をまとめ、今回はまさに業務ピーク時に重なり、いずれもよく最終的に発刊できたと思わざるを得ません。

改めて、執筆担当者達にご苦勞様と言いたいところですし、このような時期に並行できることが一流の研究員の証のひとつだと思います。

本誌を手にとっていただいた方々に感謝するとともに、関心のあるテーマについては、個々の執筆者も含めて、ご意見をいただいたり情報交換させていただければ、苦勞した甲斐があるというものです。

紙面の都合上、各テーマ別には限られた情報しか掲載できていませんが、その背景には膨大なストックがありますので、是非、読者の方々にはその全貌を想像し、担当に確認していただきたいところです。

04号と05号は、当社の最近の業務の全体像を手短かに紹介することに重点をおきましたが、次号からは、新たな紙面構成を検討していますので期待してください。

我々にとっては、三ヶ月ごとにはあっという間にくるのですが、読者にとっては長い時間かもしれません。次号が送付されてくるのを待ち遠しく思っていただけのような紙面としたいと思っています。

●04号目次

テーマ 1	新たな政策立案の潮流とシンクタンクの役割
テーマ 2	「政策」の「評価」について
テーマ 3	非市場財の経済評価
テーマ 4	都市における定量的な分析・予測・評価手法の可能性
テーマ 5	日本の住宅金融の転換に向けて
テーマ 6	密集住宅市街地整備型リバース・モーゲージ・システム
テーマ 7	若者の地方回帰
テーマ 8	ソフト・サービス分野におけるPPP
テーマ 9	所有権の住宅と利用権の介護施設を組み合わせた新しい居住形態：ジュリオ
テーマ 10	サービスオフィス：多様化するオフィス形態
テーマ 11	わが国におけるアウトソーシングの現状と今後の課題
テーマ 12	都市再生とベイエリア連合構想への道